



# The Festival of India

## インド祭

インド文化交流評議会 (ICCR) 派遣 Sent by ICCR

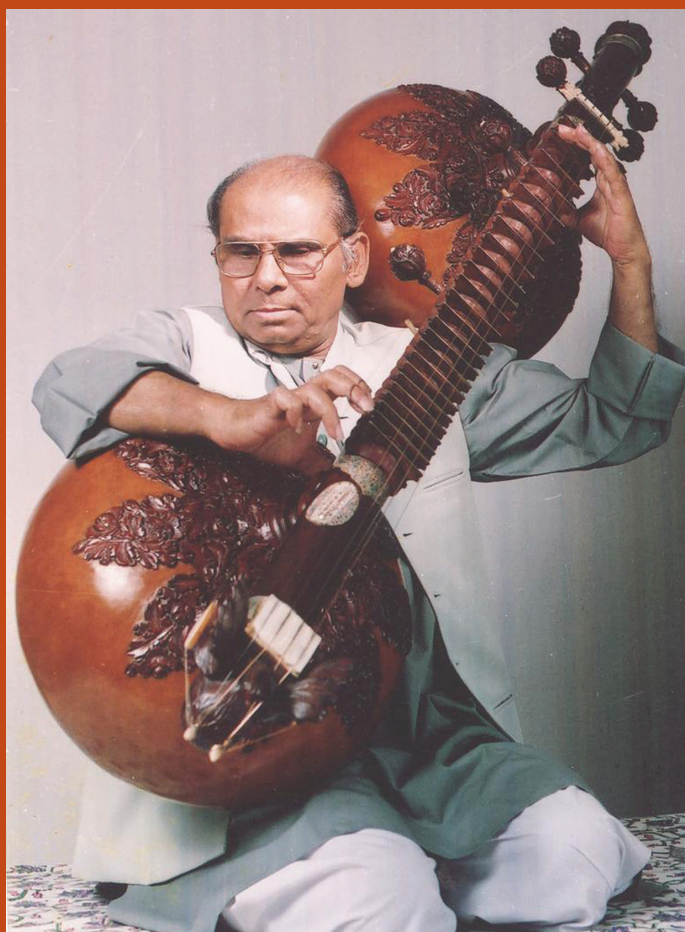
### インド古典音楽ルドラ・ヴィーナの巨匠

# ウスタド・アサド・アリ・カーン コンサート

Maestro Ustad Asad Ali Khan, Rudra Veena Concert

ルドラ・ヴィーナはその起源が数千年前のヴェーダの時代まで遡ると言われる、インドの楽器の中でも最も古い。チークの木をくり抜いた竿に弦を張り、その両端にかぼちゃで作られている共鳴器が付けられている楽器。世界で知られるシタールの原型ともいえる。

来日するウスタド・アリカーンは、宮廷音楽家の家系の7代目。現在インドのルドラ・ヴィーナ奏者の中で、その代表といわれる。日本では古典楽器ヴィーナが紹介される機会はほとんどなかった。特に南インドの音楽は、日本の音楽と似た「間」があり、深く、静かで強く、宇宙的な哲学を体現している。インドの音の真髄ともいうべきもので、インドの伝統文化の遺産を真近に見ることは、様々な刺激を人に与えるだろう。



The Rudra Veena, the oldest Indian musical instrument, is believed to date back thousands years to the era of Vedas. A hollowed tubular teakwood body with strings on it has two resonators made of hollowed pumpkins. It is considered as a prototype of the Sitar, the famous Indian instrument. Ustad Ari Kahn is the 7th generation of the family of court musician. He is one of the most prominent Rudra Veena players. The instrument has been barely introduced to Japanese people. South Indian music, with "Ma=pause" just like Japanese music, is deep, quiet and strong, embodying cosmic philosophy. It can be deemed as an essence of sounds of India. People will get stimulated in various ways to see closely the heritage of Indian traditional culture.

## 日本橋公会堂「日本橋劇場」 (Nihonbashi Town Hall, Nihonbashi theater)

住所：東京都中央区日本橋蛸殻町1-31-1 TEL：03-3666-4255

●最寄り駅 東京メトロ半蔵門駅 徒歩2分

Address：1-31-1, Nihonbashi-Kakigaracho, Chuo-ku, Tokyo TEL：03-3666-4255

●Access Tokyo Metro：2-minute walk from Suitengu Station on the Hanzoumon Line

### 2007年10月31日(水)

開場：午後6時 開演：午後7時 参加費：前売り 2,000円 / 当日 3,000円 (全席自由)

Wednesday, 31 October at 19:00 (open at 18:00) Admission：3,000 yen (Advance: 2,000 yen)

チケット前売り予約 TEL：025-752-2537、090-6943-1406

※チケット予約：お電話にて予約、当日会場受付にてチケットのお渡し、ご精算となります。

主催：インド大使館、インド文化交流評議会(ICCR)、「水の都、中央区をつくる会」 Organized by Embassy of India, Tokyo & ICCR

共催：中央区日本インド文化交流実行委員会、NPO法人日印交流を盛り上げる会 Cohosted by Society to Promote Indo-Japan Cultural Relations

後援：中央区、中央区教育委員会、インド政府観光局、エア・インド、インド貿易振興局、(財)日印協会 協力：中央区交響楽団

私たちも「インド祭」を応援しています 関東インド人会、江戸川インド人会、東京ベンガル協会、インドセンター、バンクオブインディア、

ステートバンクオブインディア、ニューインディア保険会社、(有)アパメックス、シャンティ紅茶、新宿中村屋

《インドレストラン》：アショカ、ゴングル、モティ、マハラジャ、マハッタ、ムンバイ、シディーク、シタール、リトルインディア、コストリ

IEO国際交流団体、NPO日本語で行う日本-インド間事業を支援する会、レインボー国際協会、出帆新社、ブルーロータス、(社)横浜インド商協会の

横浜ムンバイ友好委員会、横浜インドセンター2008年度設立協議会、横浜インド文化交流委員会(順不同)

問合せ：NPO法人日印交流を盛り上げる会 Inquiries&Applications: Society to Promote Indo-Japan Cultural Relations

TEL：025-752-2537 FAX：025-752-6076 E-mail to：info@mithila-museum.com http://www.versajp.com/jp-india50/

「日印交流年」は2007年1月から12月まで日印両国で日本におけるインド年、インドにおける日本年として開催されます。